

## 4. 来年度 R I 活動方針

DGE 小島 哲

### 慈愛の種を蒔きましょう

今日ここで私が御話致しますのは、アナハイムで聞いてきたことをそのまま申し上げます。私の意見は入っておりません。アナハイムでの研修を受けて、2640地区でどのような活動をするのかは、3月17日の地区協議会会長部門で御話致します。

次年度のラタクル会長の講演は素晴らしいものでした。あれを聞くだけでも研修をうけに行った値打ちがありました。テーマはご存知の「慈愛の種を蒔きましょう」であります。英語では「Sow the seed of Love」でありまして、「Love」を「慈愛」と訳されたについては色々難しい点があったであります。友愛・奉仕・理想・平和・調和が慈愛の世界です。ラタクル会長はタイの人で、仏教の心をお持ちですから我々日本人とも相通ずるところが多かったと思われます。先ほどビデオでご覧頂きました「次期会長へのメッセージ」にその全てをおっしゃっておられます。これは是非とも皆様に何度も聞いて頂きたい内容ですので、そのメッセージをプ



リントして本日の資料に入れてあります。どうぞ、お帰りになってゆっくり御読み下さいますようお願い致します。

ラタクル会長は、まず『慈愛の種』を貴方のクラブに蒔いて下さい。次に貴方の職場に蒔いて下さい。そして、地域社会、世界に蒔いて下さい。と申されております。そして職業奉仕の重要性も説かれております。職場での高い道德基準を強化して欲しいとも申されております。最近新しい業種が増えております。大きい会社ではなく、個人が自宅で営業されている様な場合も多いと思われます。商業分類表を毎年見なおして下さい。そして、その新しい業種の人々をロータリーに加えて下さいと強調されておりました。

肥沃な土地に蒔かれた種は、直ちに根

を張り、実を結び、自ら種を蒔いてくれますが、固い土地に蒔かれた種は、それを育てるのに世話が必要だとも申されております。「蒔いた種を育てる」これが社会奉仕の原点ではないでしょうか。「蒔いた」だけではだめなのであります。私は研修の時に、「蒔くのは簡単だが、水をやったり肥料をやったり、風を防いで育てるのが難しい。でも種を蒔かねば何もできない」と意見を述べましたが、その点についてもラタクル会長はきちんと言及されておりました。

ロータリアンとして、ロータリーの仕事をするのは、クラブとその会員であって、地区ガバナーでも、国際ロータリーの理事や会長でもありません。ラタクル会長はクラブを充実させるために、「TOP DOWN」ではなく「BOTTOM UP」で、と主張されており、さらに「TOPとかBOTTOMと言うのはやはり上下の差を意識しているのだろう。私は皆さんを平等だと考えている だからBOTTOM UPとは言いたくない」とも言われました。講演の中では「GRASS ROOT」と云う言葉が使われました。つまり「草の根」であります。RIの会長などが皆様に「守るべき新たな規則や踏むべき新たな手続きや、達成すべき新たな目標水準」を与えるのではないので

す。「RI本部から 作業、目標、割り当て等のリストが送られて来ることはない」と言い切っておられます。会員増強を強調されるのは今年度と同じですが、それにしましても、「純増年5名の様に決めるのではなく、貴方が増強の目標を決めてほしい。そしてそれが達成できたら会長賞に値する」と現キング会長とは全く異なった意見であります。何をすべきかは皆様自身が考え御決めになることでもあります。何故なら、何が一番大切であるか、何がクラブを最も充実させ得るかは、クラブとその会員が最もよく知っているからであります。

あるクラブは一年を通して現在の会員を保持すること、あるいは一年に新会員を1名だけ加えることを希望するかも知れません。別のクラブはおそらく、親睦活動に焦点を当て、クラブ例会、地区大会、国際大会への出席を推進したりすることによってクラブを充実させることを望むでしょう。あるいは、青少年のために奨学金を提供したいと思うクラブもあるでしょう。高齢者のためにレクリエーション・プログラムを支援したいというクラブもあるでしょう。国際奉仕に資金を提供することを考えるクラブもあるでしょう。要するに、皆様御自身が各自の目標をたてるのです。御自分では考えず

に、R Iの方針だから・地区が言うからだけで、その活動から得られる結果も知らずに動いておられるのではロータリアンとしての喜びはないのであります。

ラタクル会長は、今まで述べました様に、皆様を一番大切にしておられます。皆様の責任は重く、難しい任務を背負わされました。それだけに、達成できた時の喜びは大きいのであります。

私達は与える慈愛こそ、受ける幸福だと知って集いました。世界には食物に対する飢えよりも愛に対する飢えの方がはるかに多いことを知って集いました。慈愛の種を蒔きましょう。来年度、このテーマにそって生活し、活動していただくようお願いします。慈愛の種を蒔くことは、人生を通して日々奉仕する機会を見つけることです。慈愛の種を蒔くことは、他人のことをまず先に考え、他人のために何ができるかという側面から自分のことを考えることです。

不公正な事業慣行、意義深い人間関係を築くことも出来ずにぎ合う街で寂しく

長時間働くビジネス・マン、路頭に迷い、あてもなくうろつくホームレスの人々、病人、目の不自由な人々、障害者、愛情も暖かみもなく何一つ正常でない暮らしをする子供たち、こうしたことを耳にした覚えがありませんか？ また、国家間や異文化間の敵対が際限のない苦痛や戦争を引き起こしている世界、こうしたことは何度も耳にされたことでしょう。クラブが行われる奉仕活動の参考として、本日の資料の中に「奉仕の機会に関する項目」と云うのがあります。これはR Iが全世界のクラブに向けて作成したもので、特に日本に向けた物ではありませんが、参考にして頂きましたら結構です。(資料 - 3)

もう一度、本日の資料にあります「ビチャイ・ラタクル会長エレクトの2002 - 03年度クラブ会長へのPETSメッセージ」をお読み願います。これに次年度の奉仕活動の総てが盛り込まれております。